

被爆者のねがいに政府はこたえるべき

核兵器禁止条約に参加する日本を

核兵器のない世界へ 被爆者が重要な役割



す。核兵器を持つことも、つくることも、使うことも、使うと脅すことも全て禁止する、画期的な条約です。

核兵器禁止条約は、被爆者のみなさんが自信の被爆体験を語るなど、核兵器の非人道性を訴えてきたこともあってできました。「ヒバクシャの体験した苦しみ」に心を寄せ、被爆者の果たしてきた役割が条約に明記されています。

署名と被爆者援護 募金にご協力を

核兵器禁止条約は世界の122か国の賛同で採択されました。反対しているのは、一部の核保有国や同盟国です。これらの国々はすみやかに、条約に署名・批准すべきです。

とくに、被爆国の日本が禁止条約に参加しないのは問題です。政府は、核保有国が参加していないことや、北朝鮮の脅威を口実にしています。しかし、ヒロシマ・ナガサキと平和憲法をもつ国には、核兵器は禁止しなくさなくてはならないというルールをつくる特別の役割があるのではないのでしょうか。



核兵器禁止条約に日本や保有国を参加させるには、市民の声と行動が必要です。ぜひ「ヒバクシャ国際署名」にご協力ください。平均年齢が80歳を超えた被爆者のみなさんを支える募金にもぜひご協力をお願いします。(2017・12・6)

国連認証 NGO・原水爆禁止日本協議会(日本原水協)

Tel:03-5842-6031 HP:<http://www.antiatom.org/>